

①体罰事案について

今年に入り体罰事案が2件立て続けに、県協会へ告発。以下概要。

1. 匿名メールにて。事案が起きたチーム名などは記載されていなかったが、内容からすると小学部か中学部のクラブチームであること。体罰を受けた保護者からのメール。

所属するコーチから、罵声を浴びせられたり頭を叩かれたりした。子どもはやる気をなくして、ラグビーを辞めたいと言っている。子どものやる気を引き出してやるのがコーチングではないのか。県協会に所属するチームに、そのような内容を伝えてほしい。

2. 匿名の手紙にて。チーム名の記載あり。

県協会からチームに確認をとったところ、事実であることが判明。所属する選手Aが練習に対して怠慢な態度であった。それを注意したコーチBであったが、Aは聞き入れようとせず、同じような態度のままであった。再三の注意にもかかわらず、無視しようとしたAをBが引き留めて、Aの顔面を三回殴った。その結果、Aは歯が欠けるケガを負った。

この体罰が行われたのが7月で、協会に投書があったのが10月。事案が起きた直後、A及びAの保護者にBは謝罪をして和解が済んでいた。しかし、周囲で現場を見ていた保護者から、何事もなかったように活動を続け、公式戦にも出場するチームの体制に疑問を呈して投書。

協会は投書直後から、チームへの聞き取りとBへの聞き取り。二度にわたる理事会での協議。九州協会、インテグリティ委員会への通告をして、最終判断をおおぐ。九州協会からの判断として、Bは三カ月の謹慎処分。すでに処分を受け入れ済みである。また、定期的に当該チームの視察を実施する予定である。

今回、協会への告発であったため、このような対処がなされた。最初から警察やマスコミへの告発であれば、ワールドカップ期間中であったこともあり、更に大変な事態につながっていたこと。

以上のことを鑑み、県協会（理事会）では、同じような事案については、厳正に処罰がなされるべきという意見が強く、日本協会の規約のもと、防止できなかったチームとしての責任も問われるべきであるとしています。

中学委員会から、同じような事案が出ないためにも、再発防止のため、チームごとにコーチ会議を開催してもらいたいと思います。コーチはグラウンドに立つ全コーチ（保護者コーチを含む）で行うようにお願いします。全コーチ、チームとして暴力廃絶宣言をしてもらい、毎年の取り組みにしていきます。

今回の取り組みは、決して処罰の対象にするための取り組みではなく、今回のような不測の事態からチームを守るための取り組みと考えてください。暴力廃絶宣言も、チーム内隅々まで周知させるための手段でしかすぎません。ご協力よろしく願いいたします。

代表者会議：2020年1月中に開催をお願いします。

宣誓書、議事録の提出：2020年3月末までに、県協会事務所まで提出をお願いします。

②女子大会について

1. 前回の代表者会議で確認したことの再確認

- ・女子はファイナルステージ（全国大会）、セカンドステージ（九州大会）の男子の部には出場できない。（大会規定）

- ・ファイナルステージにつながるファーストステージ（県大会）については、男子の部・女子の部両方に出場することはできない。（日本協会規定）

- ・日本協会規定では、ファーストステージについては女子選手の男子の部への出場を禁止していない。そのため、女子選手が男子の部に出場することは可能。しかし、男子の部に出場した場合は、女子の部に出場はできない。この部分で、女子は男子の部に出場するか、女子の部に出場するかの選択をしなくてはならない。

- ・ただし、ファーストステージで、女子の大会が成立しない場合（チーム数）、女子は男子の部に出場した後、

協会として選抜チームを組織して、セカンドステージにのぞむ。

- ・今年度については、女子の大会が成立するため、上記例外は認められない。

2. 今回の確認事項

- ・女子大会においても男子同様、ファーストステージを勝ち上がったチームがセカンドステージに進出する。
- ・合同チームを組む場合、新人戦3月末までに組織して、試合にのぞむ。

現在、女子チームについては、女子部の立ち上げや準備段階というチームが数チーム。現段階では、春日リリーズが立ち上がり、志免中と百道中がそこに合同を組んで、単独で活動している。

今後の展望として、各チームでの女子部の立ち上げ、近隣チームでの合同チームから、細分化していくことで、女子の活動の場が広がる。福岡中学男子の例をみても、多数のクラブで切磋琢磨することで、競技人口の増大、競技力の向上につながっている。最終的には、女子もそのような姿を目指したい。

③来年度日程案について

・アジアラグビー交流フェスタは9月26日、27日に開催。大会案内を早めに告知してもらい、早めの参加希望をとる。参加希望多数の場合は、セブンスの大会を開催して出場枠をかけた予選会を行うことで確認。また、この日程を避けるために日程がずれ込むので、新人大会は来年度もトーナメント形式で行います。今回、2試合しかこなせなかったチームもあるため、最低でも3試合確保できるようにします。

④中学校合同チームについて

治郎丸中、輝翔館中、西南中、志免中が規定人数に足りないため、合同を組むことになります。話し合いの結果、次郎丸・志免中合同、輝翔館・西南中合同に決定しました。